

福山城築城400年プレ事業

福山名所コンサート

ふくやま などころ



第2回 鞆城跡（市史跡）

2018年4月7日（土）10：30～12：00

会場：福山市鞆の浦歴史民俗資料館 福山市鞆町後地 536-1

TEL 084-982-1121 <http://www.tomo-rekimin.org/>

お話 「鞆城跡について」 北村憲司

(福山市文化財保護指導員)

能コンサート

- ・「暁光」瀬戸内の夜明け組曲より 小鼓 久田舜一郎
- ・小謡「鞆浦」 謡 大島政允 大島衣恵
小鼓 久田舜一郎
- ・謡ってみよう「鞆のむろの木」指導 大島衣恵
- ・独調「玉の段」 謡 大島衣恵 小鼓 久田舜一郎
- ・仕舞「八島」 シテ 大島衣恵 地謡 大島政允

主催／喜多流大島能楽堂 TEL 084-923-2633

<http://www.noh-oshima.com>

共催／福山城築城400年記念事業実行委員会

後援／福山文化連盟 福山喜多会 エムエムふくやま

鞆城跡と水野家と能楽

福島正則、鞆の浦に入る

慶長五年(1600)九月の関ヶ原の戦いで、徳川家康に寄与した福島正則は芸備四十九万石を拝領。福島家中は瀬戸内海を西下しこの鞆の浦に入る。重臣・福島正澄と大崎長行が神辺城の受取、津田繁定に鞆を管理させ、三原・広島へと向う。検地・刀狩を行い、広島城の支城として三次・東条・小方(大竹市)に新城の築城を始める。

幻の鞆城 三重三階の天守

鞆には検地・刀狩が終わった後に支城が造られることになり、大崎玄蕃を配した。大可島への埋め立てを行い、七町の町割、医王寺再建、福禅寺再建、寺町の形成など現在の鞆町の町並み形成の原点を造り上げ、三重三階の天守を持つ惣構えの城郭が出来上がりつつあった。

だが、大坂の陣後、「武家諸法度」「一国一城令」が發布され、鞆城は完成を目前に壊され、陣屋となった。(陣屋とは城の機能を持った武家屋敷)

福島正則改易、水野勝成入府

元和五年(1619)六月、広島城を幕府の未許可で修復工事をしたことが武家諸法度違反であるとして福島正則は改易となり、大和郡山から水野勝成が笠岡の一部を含む備後東部七郡・十万石を拝領し、鞆の浦から入国。水野勝成はしばらくこの鞆に居て、居城となる地を常興寺の丘と決め、松山(現護国神社の丘)に仮住まいし築城の指図をして、三年間で福山城を築城。鞆には嫡子・勝重(後の勝俊)を海防の役目として住まわせた。寛永二年(1625)六月、三代藩主となる勝貞(幼名・伊織)は鞆の御屋敷で誕生。

天草の戦い、水野三代で出陣

戦の無い世の中が続くと思われた寛永十四年(1637)十月、九州天草で悪政に対しての百姓とキリシタンによる一揆の反乱(島原・天草の乱)がおきる。幕府はこれを鎮圧すべく近隣の大名に出陣の命をだす。鎮圧の総大将に老中・松平信綱が命を受け、信綱は戦の経験がある水野勝成出陣の要請。翌年、勝成は嫡子・勝重(後の二代藩主勝俊)と孫の伊織(後の三代藩主勝貞)と共に、この鞆の浦から約六千人の兵を伴って出陣。この時、祇園社に戦勝祈願をしたという言い伝えも残る。

翌十五年二月、天草に着いた水野勝成親子は原城を見下ろせる山に陣を構え、総攻撃では勝重の軍が原城に一番乗りし攻略を果す。又、伊織も勝成が喜ぶほどの働きをしたと伝えられている。勝成は戦勝を祝い、声高らかに「八島」を舞ったという逸話がある。この反乱を鎮圧して福山に帰ってきた勝成は、島原での勝重の働きを評価して、藩主の座を嫡男・勝重に譲った。



能「八島」シテ大島輝久
2006, 11, 12

二代目水野勝重(改め、勝俊)鞆奉行所を置く

勝重は鞆の陣屋を奉行所とし、島原の鎮圧で鉄砲組頭だった荻野重富を鞆奉行として鞆の治安と民政・海防の役目を任せた。勝重は勝俊と名を改め、福山領内の町づくり(新橋(木綿橋)・春日池・服部大池・深津新涯・等)と民政に努めた。

三代目水野勝貞、組み立て式能舞台を靱の祇園社に寄進

三代藩主となった勝貞は父勝俊と同じく能楽の喜多流を学び、城の南に(現在のローズコム・中央公園の地)新たに下屋敷を建て、屋敷内に新たに能舞台を造った。勝成が將軍より拝領していた「秀吉の伏見の組み立て式能舞台」を自らの産土神である靱の祇園社に寄進。

万治元年(1658)に沼名前神社の御手火神事が始まる。この時より毎年六月十八日(現在は七月第二日曜日の神幸祭の前日)の祭礼の時、神前で奉納の演能がある。

『中村家日記』には宝永六年(1709)六月十八日の祭礼からの神能番組の記録あり。現在でも氏子により神能祭が行なわれている。



沼名前神社能舞台 (国重要文化財)

新作能「靱のむろの木」2005, 10, 1

大伴旅人 大島政允 郎女 大島衣恵

水野勝成と喜多七太夫

勝成が隠居後のある時、喜多七太夫の長男・寿見(ジュケン)を招聘して、「道成寺」を所望したところ、水野家お抱え役者の鼓では自分の技量が発揮できないと辞退。勝成が寿見の気ままに立腹、これを知った寿見は手討ちにされることを恐れ夜逃げして江戸に帰った。七太夫はこれを聞いて驚き、急遽福山に馳せ勝成に詫び、改めて「道成寺」を「秀吉の伏見の能舞台」で舞った。



三代藩主・水野勝貞が沼名前神社に寄進した石灯籠
(福山市重要文化財)

曲目紹介

- ◆「曙光」 瀬戸内の夜明け組曲のオープニング曲。
瀬戸内海の美しい夜明けの情景を小鼓の演奏のみで表現します。
- ◆小謡「鞆浦」 大正6年に大島壽太郎が創作した新作能「鞆浦」の一節。
春の美しい鞆の浦の情景を描写している。
- ◆謡ってみよう「鞆のむろの木」
帆足正規 作 大島政允 節付 平成14年国立能楽堂にて初演
万葉集で名高い大伴旅人が亡き妻と眺めた鞆のむろの木を詠んだ
歌三首を織り込んだ新作能の一節を会場の皆様と謡ってみましょう。
- ◆独調「玉ノ段」 能「海人」の謡処を謡と小鼓で演奏します。
- ◆仕舞「八島」 源義経が屋島での源平の戦いに勝利したことを題材とした能「八島」の
舞どころを紋付袴姿で舞います

(出演者紹介)



大島政允 (おおしままさのぶ)
能楽師 喜多流シテ方職分
国総合認定重要無形文化財
喜多流大島能楽堂四代目当主
福山市在住



久田舜一郎 (ひさだしゅんいちろう)
能楽師 大倉流小鼓方
国総合認定重要無形文化財
西宮市在住



大島衣恵 (おおしまきぬえ)
能楽師 喜多流シテ方
東京芸術大学音楽部邦楽科卒業。
喜多流大島能楽堂を拠点に国の内外で活動。